



舟戸神社は、西に流れる大和川の左岸、西側を旧当麻街道が南北に走る地に鎮座しています。旧当麻街道は、北の龍田神社(斑鳩町)と南の当麻方面や吉野・和歌山方面を結んでおり、多くの人に利用されてきました。

江戸時代、この付近の大和川には橋が架かって



舟戸神社

(王寺町)

おらず、船で渡っていました。このため、この辺

(住所) 王寺町舟戸2の4189
 (祭神) 久那戸神
 天兒屋根命
 (交通) JR王寺駅か近鉄新王寺駅

から南東へ徒歩約15分
 (拝観) 自由
 (駐車場) なし
 (電話) なし

りの集落は、江戸時代には「船渡」と呼ばれており、現在は「舟戸」と表記されています。

祭神は久那戸神と天兒屋根命で、久那戸神は道祖神や賽の神と同様に道路や旅人などを守る神であり、大和川や旧当

麻街道を行き交う人々やこの地を守る神として信仰を集めています。なお、祭神については、伊弉諾神が投げ捨てた杖から生まれた衝立舟戸神とする伝承もあります。

神社の創建時期は室町時代以降と考えられ、それ以前には飛鳥時代に創建された西安寺がありま

した。西安寺の発掘調査では、飛鳥時代から室町時代の瓦が出土しており、また、神社の拝殿の北東に塔が、その北に金堂があったことが明らかになりました。さらに東回廊跡も確認されました。

この結果、南向きの四天王寺式伽藍配置(門・塔・金堂・講堂が一直線上に並ぶ)の古代寺院であったと考えられています。

(奈良まほろばソムリエの会員 池内力)

渡し船の地 旅人守る神